

2021年度けいじゅヘルスケアシステム業績集発刊にあたって

2021年度もwithコロナであった。国民はコロナ対応に飽きたと言うものの、敵はラムダやオミクロンとしたたかに進化を繰り返した。残念ながら、恵寿総合病院、恵寿金沢病院におけるクラスター発生や、各障がい者施設、介護保険施設で職員、患者・利用者の散発的なコロナ感染が見られた。感染対策チームの献身的な努力によって最小限の感染で抑え込むことができたものの、この対応のための病棟閉鎖、外来制限、通所利用者の制限などによる経営的なダメージを被ることとなった。

このwithコロナの中で、非接触サービスとして、オンラインによる診療、相談、面会サービスは当たり前のものとなり、様々な工夫も現場視点で発生した。恵寿総合病院のクラスター発生時に、患者は病院、大学医師は自宅ないしは大学病院と言う逆オンライン診療を実施したことは、特記すべき取り組みとなった。

医療サービスでは、新型コロナワクチン接種を個別接種だけではなく、和倉温泉で職域接種を担当した。高齢化する地域における健康寿命の延伸を狙って「けいじゅフレイルドック」を新たに開始した。介護サービスでは、法人内介護技能グランプリを開催しその技能を競い、ノーリフトマイスター、Foot活マイスターを認定し、介護の質の向上に努めた。さらに、VRを利用した次世代型レクリエーション機器オミ・ピスタやAIを利用した次世代予測型見守りシステムNeos+Careを導入した。障がい部門では、青山彩光苑ライフサポートセンターで感染対策やプライバシーの確保を目指して増築工事を行い30人分の個室を確保した。

また、着実に進む働き方改革に対する布石も進んだ。病院内の定型業務のRPA（Robotic Process Automation）化をすすめて、2021年度は年間6,000時間相当の事務作業の軽減となった。健康経営では2018年より5年連続となる健康経営優良法人2022ホワイト500（大規模法人部門上位500位以内）に認証された。兼ねてから導入を検討していた定年制廃止を7月より実施した。さらに、9月、10月、11月に国際医療福祉大学高橋泰教授が主宰するDX塾を担当し、これまで20年以上にわたって進めてきたけいじゅのDXの軌跡を働き方改革の視点から紹介した。

コロナ禍においても未来への投資としてプロジェクトを進展させた。老朽化した恵寿金沢病院の今後のあり方に関してプロジェクトチームを設置し、検討を開始した。今年度も「医療へのいざないツアー」をオンラインで七尾高校、羽咋高校、門前高校にて実施し、高校生に対して医療の魅力を伝えた。介護技能実習生として、インドネシアからの候補者の面接や入国準備を行った。さらに、ベトナムの国立ダナン大学との間で、学生のインターンシップに関する協定（MOU）を締結した。

Withコロナ、地域における少子高齢・人口減少に加えて、2022年2月にはロシアによるウクライナ侵略が発生し、政治・経済が混とんとしてきた。われわれの分野においても原材料価格の高騰と光熱、輸送にかかる原価上昇が危惧される。まさに2021年度方針としたレジリエンス（強靭さ）が必要となる。2022年度は、これら外的要因に対応していくために多くの仕組みの見直しを図りたく思う。

令和4年6月吉日

けいじゅヘルスケアシステム 理事長

